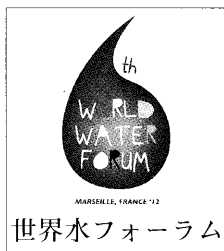


# 日本の先進技術PR



世界水フォーラム

## 日本パビリオンに 15社・団体が出展

「水問題解決のとき」をテーマに第6回世界水フォーラムが3月12日～17日、フランス・マルセイユで開かれた。3年ごとに開催される最大級の国際会議。120カ国から

閣僚級を含む関係者が参加、史上最多の約400の専門セッションや閣僚級会合、草の根・市民イベントなどで発表や講演があつた。

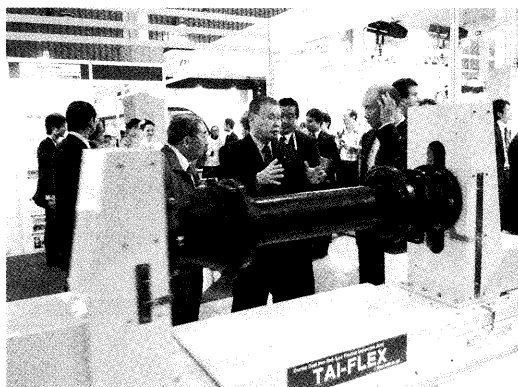
初日の開会式で主催者・世界



会場に続々と詰めかける参加者



水団連の幡掛大輔会長(左から2人目)、坂本弘道専務理事(左端)、グローバルウォータ・ジャパンの吉村和就代表(右から2人目)も参加



大成機工の「タイ・フレックス」について質問する森喜朗日本水フォーラム会長(元首相=中央)

水会議(WWC)のルイ・フォーション会長が「財政的、社会的、環境的な制約の中で実現可能な提案を討論し水の将来について語り合いたい」と宣言。続いて開かれた閣僚会議では温暖化への適応策、水と衛生の権利の普及、国際河川の協力推進、海水淡水化の将来などをテーマに討議が行われ、日本の奥田健・副

国土交通相はテーマ議長を務めた「水関連災害」会議で、東日本大震災に対する各国からの支援に謝意を述べた。

また、フランスパビリオンで開かれたセッションで、尾崎

勝・日本水道協会専務理事が日本の水道事情や東日本大震災の復旧状況について講演し、参加者は真剣に聞き入っていた。

## 世

界水フォーラムと同時開催の展示会「水のエキス」では、「巧み(洗練と先進)」「和み(調和)」「絆」をテーマに国交省主催の「日本パビリオン」が設けられた。

日本水フォーラム、環境省のほか、民間から大成機工、日本工営、日本ポリグルなども加わり計15社・団体が出展、日本の先進技術や国際貢献の実績などをPRした。地中での動きが一目で分かる大成機工の伸縮可とう管「タイ・フレックス」のデモ機は、地震や地盤沈下への先端対応機器として注目を集め、見学者からは熱心な質問も出ていた。

(水道産業新聞のほか、本誌特派、山田忠宏の取材をもとに構成しました)

report